福島の「浪江まち物語つたえ隊」の松田早百合さんをお招きして

支援活動ニュース
No.37(2018年5月31日発行)
コープさが生協総務部組織企画グループ
電話0952-31-3977

紙芝居と交流のつどいを開催しました

5月27日、29日、30日の3会場で、「浪江まち物語つたえ隊」の松田早百合さんの紙芝居による交流のつどいを開催しました。のべ85名が参加し、福島の原発事故当時のことから復興の現状について松田さんの紙芝居とお話を通じて学びました。原発事故が与えた影響と今も続く厳しい状況を知り、あらためて交流の必要性を感じました。

松田さんは浪江町出身。原発事故で立てたばかりの家を残して、子どもたち家族と離れて、福島市内の仮設住宅住まいが続きました。

福島の現状視察報告する桑原会長。農水産物や住民の放射能検査の実態や除染廃棄物の実態など詳しく報告しました。

27日佐賀市立図書館の会場には生協内外から44名があつまりました。

サガンねっと復興応援で29日交流しました。佐賀のりとさがびよりのおにぎりも食べながら交流しました。

原発立地の唐津と伊万里のエリア委員会でも30日に27名が交流しました。アニメ映画の「無念」も上映しました。

浪江まち物語つたえ隊とは

＜浪江まち物語つたえ隊＞は2012（平成24）年、当時仮設住宅で暮らしていた浪江町民ふたりで結成されました。その背景には広島県で活動する紙芝居作家・いくまさ鉄平氏との出会いがありました。
ふたりの浪江町民はいくまさ氏が制作する紙芝居で、帰れぬ故郷を想い、その歴史、東日本大震災のこと、原子力発電所の事故のこと、その後の暮らし、それ以前の暮らしを語り継ぐことにしました。
そんな想いに同調した桑折町や伊達市の人々も加入して、＜浪江まち物語つたえ隊＞のメンバーは現在は15名。浪江町に伝わる昔話や震災時の実話をもとにした紙芝居、アニメーションを制作するとともに、作品の上演会や上映会を日本のみならず海外でも開催することで、浪江町内外の親交を深め、ふるさとの記憶や震災の記憶を風化させまいと日々活動を続けています